

IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9.0 フィックスパック 1 Readme

日付: 2004 年 5 月 14 日

名称: 3.9.0-TEC-FP01

コンポーネント: IBM® Tivoli Enterprise Console® バージョン 3.9.0

PTF 番号: U497752

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、
特記事項に記載されている情報をお読みください。

第 1 版 (2004 年 12 月)

本書は Tivoli Enterprise Console のバージョン 3、リリース 9 (プログラム番号 5698-TEC) に適用されます。

(C) Copyright International Business Machines Corporation 2004.

All rights reserved.

US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or disclosure
restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.

目次

このフィックスパックについて

- フィックスパックの内容
- このフィックスパックによって置き換えられるパッチ
- サポートされるオペレーティング・システム
- このフィックスパックの新機能
- フィックスパックについての注意

インストールおよび構成

- 前提条件
- インストールの手順

このフィックスパックによって訂正される APAR

既知の制限

文書の更新情報

追加または置き換えられたファイル

カスタマー・サポートとの連絡

特記事項および商標

このフィックスパックについて

このセクションでは、このフィックスパックの一般情報を記載しています。このフィックスパックをインストールする前に、この文書全体をお読みください。この Readme 文書は、Adobe Acrobat 形式でのみ提供しています。

フィックスパックの内容

3.9.0-TEC-FP01 フィックスパックの内容は、3.9.0-TEC-FP01.tar ファイルで配布されます。このファイルに以下のものが含まれています。

- 本 Readme ファイル
- このフィックスパックのイメージ・レポート
- このフィックスパックの CD-ROM イメージ

このフィックスパックによって置き換えられるパッチ

このフィックスパックによって置き換えられるパッチは、以下のとおりです。

- 3.9.0-TEC-0001
- 3.9.0-TEC-0002LA
- 3.9.0-TEC-0003LA
- 3.9.0-TEC-0004LA

サポートされるオペレーティング・システムおよびデータベース

このセクションでは、このフィックスパックがサポートしているプラットフォームとデータベースのリストを示しています。

サポートされるオペレーティング・システムのバージョン	イベント・サーバー	ゲートウェイ	エンドポイント・アダプター	UI サーバー	イベント・ソース
AIX® 5.1	○	○	○	○	○
AIX 5.1C (32 bit)	○	○	○	○	○
AIX 5.2 (32、64 ビット)	○	○	○	○	○
Solaris ¹ 8 (SPARC)	○	○	○	○	○
Solaris 9 (SPARC)	○	○	○	○	○
HP-UX 11 (SP1)	○	○	○	○	○
HP-UX 11i (32、64 ビット)	○	○	○	○	○
Windows® 2000 Professional (SP1/3)	○	○	○	○	○
Windows 2000 Server	○	○	○	○	○
Windows 2000 Advanced Server (SP3)	○	○	○	○	○
Windows XP Professional (SP1)			○		○
Windows 2003 Server	○	○	○	○	○
Red Hat Advanced Server 2.1 (IA32)	○	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 3	○	○	○ ³	○	○
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 7.0、7.1 (IA32)	○	○	○	○	○
SLES 7.0 (S/390 & zSeries 7.0)	○	○	○	○	○
SLES 8 (IA32) (Powered by UnitedLinux 1)	○	○	○	○	○

Turbo Linux 7.0 (IA32)	○	○	○	○	○
OS/400 5.1、5.2			○		
Novell NetWare 5.1、6.0			○		
Compaq Tru64 5.1b			○		
SGI IRIX 6.5.x			○		
SCO UnixWare 7.1.1、7.1.3			○		
Solaris 7、8 (IA32)			○		
Sequent Dynix / PTX 4.5.2			○		
Siemens Reliant UNIX 5.4.5			○		

注:

1. Solaris とは Solaris オペレーティング環境を指しており、これ以降、単に Solaris と表記します。
2. このプラットフォーム・サポート表は、本フィックスパックのリリース時に入手可能な情報に基づいています。この表は、オペレーティング・システムのベンダーによって示される有効期間を終了したオペレーティング・システムも含むように更新されています。現行のサポート情報については、IBM のオンライン・サポートを参照してください。
3. Red Hat Enterprise Linux 3 の詳細については、『フィックスパックについての注意』のセクションを参照してください。

RDBMS ベンダー	バージョン
IBM DB2®	7.2 (FP7)、8.1 (FP2)
Oracle	9i、9i v2
Sybase	12, 12.5
Microsoft SQL Server	7.0, 2000
Informix®	9.3

注:IBM Tivoli Data Warehouse (TDW) バージョン 1.2 サポートは、将来の一時フィックスで使用可能になる予定です。IBM TDW 1.2 のサポートは、このフィックスパックでは使用できません。

このフィックスパックの新機能

このセクションでは、Tivoli Enterprise Console 製品に加えられた変更についての情報を記載しています。

- TME® 以外のバージョンのイベント・コンソールは、インストール・ウィザードを使用しなくても、サポートされているすべての Microsoft Windows® システムにインストールできるようになりました。詳細については、この Readme ファイルの『文書の更新情報』のセクションを参照してください。
- triggerMode 属性は、resetOnMatch および passthrough ルール・タイプの新しいオプションの属性です。これにより、必ず最初のイベントを送信するのではなく、どのイベントをルール・アクションに送信するかを選択できるので、柔軟性が向上します。
passthrough ルールの場合、triggerMode 送信モードは、passthrough ルールが完了してイベントをその定義済みアクションに送信するときに、以下の機能を実行します。

firstEvent

この送信モードは、イベント・シーケンスを開始するトリガー・イベントを送信します。これはデフォルトのモードです。

lastEvent

この送信モードは、イベント・シーケンスを完了するイベントを送信します。

allEvents

この送信モードは、完了したイベント・シーケンスのすべてのイベントを送信します。

resetOnMatch ルールの場合、triggerMode 送信モードは、resetOnMatch ルール・タイマーが満了してイベントをその定義済みアクションに送信するときに、以下の機能を実行します。

firstEvent

この送信モードは、イベント・シーケンスを開始するトリガー・イベントを送信します。これはデフォルトのモードです。

lastEvent

この送信モードは、時間枠内に受け取った最後のイベントを送信します。

allEvents

この送信モードは、イベント・シーケンスと一致し、時間枠内に受け取ったすべてのイベントを送信します。

- 新しい Event Integration Facility API キーワードである **ReadRetryInterval** は、部分イベントを受け取ったときに、Event Integration Facility API によって使用されるタイムアウト値を構成するために使用されます。

ReadRetryInterval

このキーワードは、部分イベントの受け取り時に Event Integration Facility API によって使用されるタイムアウト値を指定します。このキーワードのデフォルト値は 120 秒です。Event Integration Facility の送信側は、2 KB より大きいイベントを処理する場合、そのイベントをソケット接続で送信するために 2 つのパケットに分割します。Event Integration Facility の受信側がそのイベントが部分イベントであると判断した場合、このキーワードによって指定された期間だけ待機して、2 番目のパケットを検索し、プロセスを完了します。2 番目のパケットをこの期間内に受け取れなかった場合、受け取った部分イベントを破棄し、メッセージをログに書き込みます。

- 以下のキーワードは、Event Integration Facility 構成ファイル内で使用して、イベントを送信する前に宛先サーバーに対して ping を実行するようにイベント転送を構成することができます。

PingTimeout

宛先サーバーへのアクセスを試行する ping 呼び出しの最大タイムアウト (秒単位)。PingTimeout を指定しない場合、ソケット接続呼び出しを呼び出す前に Event Integration Facility は ping 呼び出しを実行しません。

NumberOfPingCalls

宛先サーバーが使用可能かどうかを判別するまでに、ping 機能を呼び出す回数。一部の TCP/IP 構成では、宛先サーバーの停止後の最初の ping 呼び出しが正常に戻される場合もあります。このキーワードのデフォルト値は 3 です。

- 管理対象ノードにインストールされている Tivoli Enterprise Console ゲートウェイを停止させるための、新規バージョンの **wstoptecgw** コマンドが作成されました。新規バージョンの **wstoptecgw** コマンドは管理対象ノードにインストールされ、既存のバージョンの **wstoptecgw** コマンドはエンドポイントにインストールされます。tec_gateway プロファイルが管理対象ノードまたはエンドポイントのいずれかに配布される時に、該当する **wstoptecgw** コマンドが自動的に呼び出されます。詳細については、『文書の更新情報』のセクションをお読みください。

注:Tivoli Management Framework の問題により、Tivoli Management Framework バージョン 4.1 のインストール・システムの tec_gateway.conf プロファイルは配布できません。この問題を避けるには、プロファイルを配布する前に以下のコマンドを実行します。

```
ln -s $BINDIR/bin/wdiff /usr/local/bin/diff
```

フィックスパックについての注意

フィックスパックをインストールする前に、以下の注意点をお読みください。また、この文書の変更点については、『文書の更新情報』のセクションをお読みください。

- エンドポイントまたは非 TME アダプターが Red Hat Enterprise Linux 3 システムにインストールされている場合、以下のエラーが生成される可能性があります。

```
error while loading shared libraries:libstdc++-libc6.2-2.so.3:cannot
open
shared object file:No such file or directory
```

この問題を解決するには、Red Hat Enterprise Linux 3 インストール・メディアに収録されている `compat-libstdc++-7.3-2` パッケージをインストールしてください。Red Hat Enterprise Linux 3 for PowerPC ディストリビューションの場合、この互換ライブラリー・パッケージはインストール・メディアではなく、Update 1 CD に収録されています。

- `tec_gateway_sce` adapter 構成プロファイルと、ゲートウェイでのイベント・トラフィックの制御におけるその役割については、バージョン 3.8 の「*IBM Tivoli Enterprise Console Event Integration Facility ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。
- 英語以外のロケールで Windows プラットフォーム用の TME 以外のアダプターをインストールする場合、システムを再始動して、更新済みの環境変数をロードする必要があります。
- ゲートウェイで State-based Correlation Engine (SCE) およびフィルター操作を使用する場合、以下の構成オプションを IBM Tivoli Management Framework イベント・シンク構成ファイル (`eventsink.cfg`) に設定する必要があります。
`MAX-NUM-EVENTS-TO-SEND=1`
- `wsetemsg` コマンドを使用してイベントの状況を `ACK` に複数回設定することは、デフォルトでは許可されなくなりました。すでに `ACK` 状況になっているイベントを確認するには、`-f` フラグを使用する必要があります。
- **re_generate_event_conf** 述部は `generate_event` 述部と似ており、構成ファイル引数が付加されています。
説明: `event_class` の内部イベントを属性 `'list_of_event_attributes'` で生成し、それを構成ファイルで指定された `"ServerLocation"` に転送します。
概要: `re_generate_event(conf_file, event_class, list_of_event_attributes)`
引数:
`conf_file`
宛先サーバーの位置が入っているファイル。
`event_class`
生成されるイベントのイベント・クラス。
`list_of_event_attributes`
生成されるイベントの属性。属性は以下の形式でリストに指定されます。
`[attribute1=value1, attribute2=value2,...]`

(例については次ページ)

例:以下の例では、クラス `TradingDBDown` のイベントを 4 つの属性を指定して生成し、それをサーバー `xyz` に送信します。

```
CONFIGURATION FILE:gen_event.conf
    ServerLocation=xyz.abc.com
    BufEvtPath=/tmp/evtbuffer
```

```
.
.
.
```

```
rule:
create_TradingDBDown:
(
event:_event of_class 'NV6K_Application_Down_Event',
reception_action:generate:
(
re_generate_event_conf('/usr/local/gen_event.conf',
'TradingDBDown ',
[source='NV6K',
origin=_origin,
hostname=_host,
msg='Trading DB host is down ']
),
drop_received_event
)
).
```

- **BufEvtMaxSize** 構成オプションが (アダプターまたは EIF に対して) 使用された場合、最小値は少なくとも **8KB** にする必要があります。この値が指定されない場合、デフォルトのサイズは **64KB** です。

インストールおよび構成

このセクションでは、IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9.0 の 3.9.0-TEC-FP01 フィックスパックのインストール情報を記載しています。

前提条件

IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9.0

IBM Tivoli Management Framework バージョン 3.7.1、4.1、または 4.1.1

IBM Tivoli NetView バージョン 7.1.2、7.1.3、または 7.1.4 (Tivoli Enterprise Console 製品に備えられている IBM Tivoli NetView 製品機能を使用する場合)

IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.1 または 5.0.2 (IBM Tivoli Enterprise Console の Web コンソールをインストールする場合)

注:WebSphere Application Server のインストールに関する詳細については、IBM の「WebSphere Application Server Getting Started」を参照してください。

Web コンソールを表示するには、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用します。

Microsoft Internet Explorer 6.0 以降

Netscape 6.x (6.2 以降。Netscape 7.x はサポートされない)

注:IBM Tivoli Data Warehouse (TDW) バージョン 1.2 サポートは、将来の一時フィックスで使用可能になる予定です。IBM TDW 1.2 のサポートは、このフィックスパックでは使用できません。

以下の表は、Tivoli Management Framework 製品のバージョン別の推奨パッチと、それぞれのインストール・シナリオを示しています。

IBM Tivoli Management Framework のバージョン	パッチ
3.7.1	3.7.1-TMF-0098、3.7.1-TMF-0110、 3.7.1-TMF-0124、3.7.1-LCF-0013
4.1	4.1-TMF-0014、4.1-TMF-0034 4.1-TMF-0015 (Linux PPC サポート)
4.1.1	4.1.1-TMF-0005 (Red Hat Linux Advanced Server 2.1 がインストールされているシステム上に IBM Tivoli Enterprise Console をインストールすることが必要)

インストール・シナリオ	パッチ
単一ポートの大量データ転送プログラム (BDT) を利用する場合	3.7.1-TMF-0097
OS/2 TME アダプターのインストール	3.7.1-TMF-0099
Software Installation Services (SIS) バージョン 3.7.1 によるインストール	3.7.1-SIS-0005
Software Installation Services (SIS) バージョン 4.1 によるインストール	4.1-SISCLNT-0002、4.1-SISDEPOT-0002

インストールの手順

このセクションでは、このフィックスパックのインストールに関する情報を記載しています。

1. フィックスパックを抽出します。

UNIX® システムでは、以下のコマンドを使用して、内容を一時ディレクトリーに抽出します。この例では、変数 `PATCH` にこの一時ディレクトリーが指定されているものとします。

```
cd $PATCH
tar -xvf 3.9.0-TEC-FP01.tar
```

Windows オペレーティング・システムでは、以下のコマンドを使用して、内容を一時ディレクトリーに抽出します。この例では、変数 `%PATCH%` にこの一時ディレクトリーが指定されているものとします。また、`X` は `%PATCH%` のあるドライブのドライブ名です。

```
%SystemRoot%\system32\drivers\etc\tivoli\setup_env.cmd
X:
> cd %PATCH%
> tar -xvf 3.9.0-TEC-FP01.tar
```

注:Windows システムに TAR イメージを抽出する場合、TAR ユーティリティの実行可能ファイルは Tivoli インストール・ディレクトリー (`bin/w32-ix86/tools/tar.exe`) にあります。

2. Software Installation Service (SIS) を使用する場合のインストール手順は、以下のとおりです。SIS を使用しない場合は、手順 3 に進んでください。

SIS を使用して、Tivoli Software がサポートするほとんどのハードウェア・プラットフォームに Tivoli Software 製品をインストールできますが、一部のハードウェア・プラットフォームでは、SIS を実行できません。SIS を実行できるプラットフォームのリストについては、「*Tivoli Enterprise インストール・ガイド*」を参照してください。SIS のパッチについては、この文書の『前提条件』の項を参照してください。

このフィックスパックをインストールするには、`install_product` と `super` の許可の役割が必要です。

- a) Tivoli Desktop のプルダウン・メニューから、「デスクトップ」→「インストール」→「Software Installation Service」をクリックします。
- b) 「インストール・パスワードの取得」ウィンドウでインストール・パスワードを入力します。
- c) Tivoli ロゴの入っているウィンドウで「インストール」をクリックします。
- d) 「インストール・スプレッドシート (Install Spreadsheet)」ウィンドウで「**プロダクトの選択**」をクリックします。
- e) 「プロダクトの選択」ウィンドウで「**プロダクトのインポート**」をクリックします。
- f) ファイル・ブラウザで 3.9.0-TEC-FP01 のメディアを見つけて、PATCHES.LST ファイルをダブルクリックします。
- g) 「プロダクトのインポート」ウィンドウで 3.9.0-TEC-FP01 を選択してから、「**インポート**」をクリックします。
- h) 「グローバル進行状況 (Global Progress)」ウィンドウで、ファイルのインポートの完了後に「**了解**」をクリックします。
- i) 「プロダクトの選択」ウィンドウで 3.9.0-TEC-FP01 を選択してから、「**了解**」をクリックします。
- j) 「インストール・スプレッドシート (Install Spreadsheet)」ウィンドウで「**マシンの選択 (Select Machine)**」をクリックします。
- k) 3.9.0-TEC-FP01 のインストール先のマシンを選択して、「**了解**」をクリックします。
- l) 「インストール・スプレッドシート (Install Spreadsheet)」ウィンドウで該当するセルを選択します。

注:これにより、3.9.0-TEC-FP01 フィックスパックをインストールするマシンのセルに X が表示されます。

- m) 「インストール」をクリックします。
 - n) 「インストール・アルゴリズム (Installation Algorithm)」ウィンドウで、使用するインストール・アルゴリズムを選択して、「**了解**」をクリックします。「インストール・スプレッドシート (Install Spreadsheet)」ウィンドウから要求したインストールを SIS が実行します。
 - o) 手順 3 を飛ばして手順 4 に進み、インストールを完了してください。
3. 従来の Tivoli インストール・メソッドを使用してフィックスパックをインストールする場合の手順は、以下のとおりです。

注:このフィックスパックを正常にインストールするには、install_product と super の許可の役割が必要です。

- a) Tivoli Desktop のメニュー・バーから、「デスクトップ」→「インストール」→「パッチのインストール (Install Patch)」をクリックして「パッチのインストール (Install Patch)」ウィンドウを表示します。
- b) 「パッチのインストール (Install Patch)」ウィンドウで、「メディアの選択 (Select Media)」をクリックして「ファイル・ブラウザ」ウィンドウを表示します。
- c) 「ファイル・ブラウザ」ウィンドウの「パス名」フィールドに、フィックスパックを含んでいるディレクトリーのパス、つまり \$PATCH を入力します。
- d) 「メディアを設定して閉じる (Set Media & Close)」をクリックして「パッチのインストール (Install Patch)」ウィンドウに戻ります。
- e) 「パッチのインストール (Install Patch)」ウィンドウで、フィックスパックの名前をクリックして選択します。

- f) フィックスパックのインストール先のクライアントを選択します。フィックスパックは、通常は Tivoli サーバーと各 Tivoli クライアントにインストールする必要があります。
 - g) 「インストール」をクリックします。
4. これでフィックスパックのインストールは完了します。イベント・サーバーを再始動してください。

更新された IBM Tivoli Data Warehouse ルール・ファイルである `warehouse.rls` は、このフィックスパックに含まれています。このファイルをインストールするには、以下のスクリプトを実行します。

```
$PATCH¥TEDW¥ecl¥pkg¥v39010¥misc¥rules¥installpatch.sh
```

注: ファイル `warehouse.rls` は、インストール・スクリプト `installpatch.sh` と同じディレクトリにあります。

このフィックスパックに含まれている APAR フィックス

このセクションでは、3.9.0-TEC-FP01 フィックスパックに備えられている APAR フィックスの説明と解決内容を記載しています。

APAR: IY22158

症状: OS/2 アダプター・プロセス ID ロック・ファイルが、`tecadini.sh stop` コマンドの実行時に削除されない。

解決内容: システムのシャットダウン時にアダプターがファイルをアンロックし、ファイルを削除できるようになりました。

APAR: IY34268

症状: TISDIR 環境変数が Tivoli Management Framework 環境で正しく設定されないため、タスクの結果が `tec_dispatch` プロセスに報告されない。

解決内容: `tec_task` プロセスは修正され、タスクの結果を `tec_dispatch` プロセスに報告するようになりました。

APAR: IY35199

症状: `commit_*` とそれに左括弧が続くものが述部に含まれていると、正しく構文解析されない。つまり、`commit_*`(の場合。

解決内容: ルール・コンパイラーが修正され、`commit_*` 述部が正しく構文解析できるようになりました。

APAR: IY36164

症状: `tec_compile` 述部を使用するルールは、`tec_compile` 述部が副述部拡張エラーが原因で失敗するため、正常にコンパイルしたり実行することができない。

解決内容: `tec_compile` 述部を使用するルールは、正常にコンパイルして実行できるようになりました。

APAR: IY36538

症状: 200 を超えるタスクの結果がイベント・ビューアーにロードされると、コンソールのパフォーマンスが低下する。

解決内容: データベース呼び出しが修正され、すべてのイベントをさらに効率的に検索できるようになりました。

APAR: IY36663

症状: `wconsole` コマンドが無効なパスワードを指定されてコマンド行から実行されると、ログイン・ウィンドウが表示されて、エラー・コードが戻されない。

解決内容:無効なパスワードが指定された場合 **wconsole** コマンドは非ゼロの戻りコードで終了し、ログイン・ウィンドウは表示されなくなりました。

APAR: IY37101

症状:「タスクの実行 (Task Execution)」メニューから、イベント・コンソールで「選択済み (Selected)」→「タスクの実行 (Task Execution)」を開くと、最初の 100 のタスク・ライブラリー・エントリーだけしか表示されない。

解決内容:「タスクの実行 (Task Execution)」メニューを開くと、すべてのタスク・ライブラリー・エントリーが表示されるようになりました。

APAR: IY37108

症状:Windows 2000 オペレーティング・システムでイベント・コンソールを実行している場合、UI サーバーがダウンしたときにイベント・ビューアーを始動すると、UI サーバーのエラー・メッセージが表示される。しかし、いったん別のウィンドウを表示してからイベント・ビューアーを再表示すると、イベント・ビューアーが応答しなくなり、Alt キーと Tab キーを使用しなければ UI サーバーのエラー・メッセージを表示できなくなる。UI サーバーのエラー・メッセージを一度表示すれば、「了解」をクリックしてイベント・ビューアーを使用できる状態になる。

解決内容:イベント・ビューアーとエラー・メッセージの表示方法の変更により、イベント・ビューアーとエラー・メッセージを表示できるようになりました。

APAR: IY37669

症状:送信されるすべてのイベントに対して、2 つのエントリーがアダプター・トレース・ファイルに記録される。

解決内容:アダプター・トレースはそれぞれのイベント・エントリーを正しく記録するようになりました。

APAR: IY37772

症状:イベント・コンソールは改行文字と制御文字を誤って小さな四角形として表示する。

解決内容:改行文字と制御文字は正しく表示されるようになりました。

APAR: IY38047

症状:タスク実行 GUI は、タスク・ライブラリー・ポリシーで指定されたエンドポイントだけを表示するのではなく、すべてのイベントのホスト名を表示する。

解決内容:タスク・ライブラリー・ポリシーで指定されたエンドポイントと管理対象ノードのホスト名だけを表示するようになりました。

APAR: IY38500

症状: イベント・サーバー (および **oserv**) エラー・メッセージが、コンソールのサマリー・ビューまたは優先順位ビューに表示されない。

解決内容: そのようなイベントが発生すると、適切なエラー・メッセージがポップアップ・メッセージ・ボックスに表示されるようになりました。

APAR: IY38591

症状:イベントを大きな **server_path** スロット値を指定してイベント・サーバーに転送すると **tec_task** プロセスは、シグナル 211 が出されて不正に終了し、コア・ファイルを生成する。

解決内容:大きな **server_path** スロット値を含むイベントは、イベント・サーバーに正常に転送されます。スロット値が内部制限を超える場合、エラー・メッセージが **tec_rule** ログ・ファイル内に生成され、イベント・サーバーは正しく機能し続けます。

APAR: IY39339

症状:**create_clearing_event()** 述部で複数のクリア・イベントを作成するときに、それらのクリア・イベントのイベント・クラスが同じ場合は、複数のクリア・イベントを作成できない。最初のクリア・イベントが作成され、その後の作成操作は失敗します。

解決内容:イベント・クラスの同じクリア・イベントを複数作成できるようになりました。

APAR: IY39436

症状:コンポーネント指定子 **%s** は、UNIX ログ・ファイル・アダプターで正しく処理されない。

解決内容:メッセージの末尾で使用される区切り文字が修正され、アダプターにより適切に処理されるようになりました。

APAR: IY39758

症状:Linux プラットフォームで、アダプターの停止後に、アダプター停止時に実行中でなかった `syslogd` プロセスが開始する。

解決内容:アダプターの停止時に実行中でなかった `syslogd` プロセスは、開始しなくなりました。アダプターの停止時に実行中だった `syslogd` プロセスは再開します。

APAR: IY39827

症状:コンソール GUI からイベント・グループの許可の役割を変更できるが、コマンド行からは許可を更新できない。

解決内容:コマンド行からも許可の役割を変更できるようになりました。たとえば、以下のコマンドを使用して、`super` と `senior` の許可でイベント・グループを作成したとします。

```
wconsole -assigneg -h host -u user -p password -C Console1 -E EG1 -r super:senior
```

その許可を `admin` と `user` に変更するには、以下のコマンドを使用します。

```
wconsole -assigneg -h host -u user -p password -C Consoel1 -E EG1 -r admin:user
```

APAR: IY40622

症状:イベント・ビューアーで複数の列のソートを実行すると、最初のイベントがソートされない。

解決内容: イベント・ビューアーの最初の列は正しくソートされるようになりました。

APAR: IY41391

症状:アダプターの開始パラメーターを指定した場合、開始パラメーターによって指定された時間枠内でアダプターがロック・ファイルを更新した後にのみ、`syslog` はリフレッシュされる。

解決内容:`syslog` のリフレッシュは、アダプターの開始が完了するときまで遅延され、新規イベントは消失しなくなりました。

APAR: IY41444

症状:イベント・コンソールは、時間帯が英国夏時間の場合、夏時間のイベント日付受け入れ時間に調整されない。

解決内容:イベント・コンソールは、欧州/ロンドン時間帯定義をサポートするようになりました。`TEC_CONSOLE_TZ` 環境変数を、`Europe/London` に設定する必要があります。たとえば以下のようになります。

```
TEC_CONSOLE_TZ=Europe/London
```

```
Export TEC_CONSOLE_TZ
```

APAR: IY41567

症状:カスタム・イベント・ソースからのイベントの読み取り時に、メモリー・リークによって `Solaris` アダプターが異常終了し、コア・ファイルを生成する。

解決内容:アダプターのメモリー・リークは解決されました。

APAR: IY41592

症状:AIX® で、システムをオフにする時に、アダプターを停止するスクリプトを呼び出さずに、オペレーティング・システムがアダプターを停止する。

解決内容:`/etc/rc.shutdown` スクリプトに `init.tecad_logfile stop` コマンドが追加されました。

APAR: IY41667

症状:ログ・ファイル・アダプターが、大括弧 ([]) で囲んだタイプ `List_Of_Strings` のスロットをさらに単一引用符で囲む。これは、サーバー・パーサー・エラーになります。

解決内容:ログ・ファイル・アダプターが、大括弧を単一引用符で囲まなくなりました。大括弧で囲んだスロットをさらに単一引用符で囲みたい場合は、`PRINTF` ステートメントを使用して、`FMT` ファイルを変更してください。たとえば、次のようになります。

```
-tmp_msg $1
```

```
msg PRINTF("%s'", tmp_msg)
```

APAR: IY42235

症状:DBCS の管理者名がイベント・コンソールで正しく表示されない。Windows システムでは管理者名フィールドは空ですが、UNIX システムでは名前は四角形として表示されます。

解決内容:管理者名は DBCS 環境で正しく表示されるようになりました。

APAR: IY42237

症状: ルールのアクション・ボディに、引用符付きストリングの一部として「)」文字を含む `first_instance()` 述部が含まれている場合、ルール・コンパイルは失敗し、字句構文解析エラーになる。

解決内容:「)」文字を含む `first_instance()` 述部を使用したルールは、正しくコンパイルされるようになりました。

APAR: IY42463

症状:イベント・コンソールは、複数のネットワーク・アダプターがインストールされているオペレーティング・システム上で開始しない場合がある。これは、それがオペレーティング・システム上でバインドされている順序に依存します。

解決内容:更新されたバージョンの JCF が提供され、複数のネットワーク・アダプターを持つシステムの機能を向上させることができます。

APAR: IY42694

症状:AS/400® オペレーティング・システムから受け取ったイベントに左括弧が右括弧が含まれていると、イベント・サーバーで `PARSING_FAILED` エラーになる場合がある。

解決内容:AS/400 アダプターは括弧の有無をチェックして、括弧が検出された場合は値を引用符で囲むようになりました。

APAR: IY42754

症状:日本語ロケールに由来する `TEC_DB` イベントが、イベント・コンソールで正しく表示されない。

解決内容:`tec_dispatch` プロセスは、着信イベントがすでに UTF8 形式であることを `Event Integration Facility` に通知して、UTF8 変換を重複させないようにします。

APAR: IY43235

症状:ロケール固有の小数点がある `REAL` 型属性は、`tec_dispatch` プロセスがセグメンテーション違反で終了する原因となる場合がある。

解決内容:`REAL` 型属性値は、C ロケール (POSIX) 小数点 (.) を使用して `IBM Tivoli Enterprise Console` サーバーに渡す必要がありますが、C ロケールを使用して内部的に処理されることはありませんでした。`REAL` 型属性は、必ず C ロケールを使用して内部的に処理されるようになりました。

APAR: IY43295

症状:ルールに英語以外のテキストが含まれている場合は、ルールをコンパイルできない。

解決内容:ルール・パーサーの更新により、ルール内の英語以外のテキストを正しく処理できるようになりました。

APAR: IY43376

症状:文字 `%s*` を使用すると、アダプター・フォーマット・ファイルがメッセージを正しくバインドしない。

解決内容:文字 `%s*` を使用する場合も構文解析は正しくマッチングするようになりました。

APAR: IY43702

症状:外部ファイルからタスク選択リストをロードすると、イベント・コンソールにリストが表示されない。

解決内容:イベント・コンソールは、外部ファイルで保守されているタスク選択リストを正しくロードするようになりました。

APAR: IY43799

症状:`wsetemsg` クライアント・コマンドでは、イベントを何度も `ACK` 状況に設定できる。

解決内容:イベントの状況を何度も **ACK** に設定することは、デフォルトで許可されなくなりました。すでに **ACK** 状況になっているイベントを確認するには、**-f** フラグを使用する必要があります。

APAR: IY44309

症状:**BAROC** イベント・クラスと、それと同じ名前を持つ列挙を含むルール・ベースは、正常にコンパイルおよびロードされるが、イベント・サーバーが始動できない。

解決内容:イベント・クラスと列挙は同じ名前を持つことはできません。イベント・クラスと、それと同じ名前を持つ列挙が含まれるルール・ベースをコンパイルしようとする、コンパイラーでエラーを生成するようになりました。

APAR: IY44435

症状:**wtdbclear** クライアント・コマンドは **Sybase** データベースにあるエラーを検出せず、イベントのクリアに失敗する。

解決内容:**Sybase** 上のストアード・プロシージャの問題は修正されました。この変更を有効にするには、**IBM Tivoli Enterprise Console** データベースを、インストール・ウィザードを使用して(または生成されたスクリプトから手動で)再インストールする必要があります。

APAR: IY44517

症状:**HP-UX** システム上で、ルール・ベースのトレースが使用可能になっているか、または **convert_local_time** か **get_local_time** 述部が呼び出された場合、**/TMP/KIRKDB.txt** ファイルが作成され、ルールの処理とともに継続的に大きくなる。

解決内容:デバッグ出力は **\$BINDIR/TME/TEC/interpreter/lib/unix/UnixTime.wic** ファイルから除去されました。

APAR: IY44577

症状:**Tivoli Management Framework DependencyMgr:acpep-ep** ライブラリーへの不必要な依存関係は、アダプターの配布時にライブラリーがエンドポイントに配布される原因になる。製品の制約のため、最新の **Tivoli Management Framework** ライブラリーの配布を希望しないお客様もいます。

解決内容:互換バージョンのライブラリーは、**IBM Tivoli Enterprise Console** アダプターのエンドポイントで入手できます。依存関係は除去され、ライブラリーはアダプターとともに配布されることはなくなりました。

APAR: IY44924

症状:**IBM Tivoli Enterprise Console** 製品が再始動され、**add_to_repeat_count** 述部が呼び出されると、**TEC_Start** イベントの **RIM** エラーが発生する。

解決内容:この問題は、**last_modified_time** 値がイベント・サーバーの始動時に初期化されるために発生します。この値は正しく初期化されるようになりました。

APAR: IY44974

症状:イベント・コンソールで「タスクの実行 (Task Execution)」を選択すると、**oserv** デーモンが実行していても、以下のエラー・メッセージが表示される。

EC02069E:The oserv stopped running.Please restart the console after the oserv is running.

解決内容:**Tivoli** 領域で定義された空のタスク・ライブラリーは正しく処理されていませんでした。イベント・コンソールはこれらのライブラリーを正しく処理するようになり、エラー・メッセージは表示されなくなりました。

APAR: IY45167

症状:グラフィカル・ルール・ビルダーで一部の文字が正しく表示されない。

解決内容:これらの文字は正しく表示されるようになりました。

APAR: IY45644

症状: イベント・ストリングの最大長を超えたスロットを **SNMP** アダプターの **substr** ステートメントで構文解析すると、**malloc** 障害が発生し、そのイベントが破棄される。

解決内容:警告メッセージがトレース・ファイルに書き込まれ、イベントが送信されます。ストリングの最大長を超えたスロットは、空のストリングに置き換えられます。

APAR: IY45756

症状:**wtdbspace** コマンドを HP-UX システム上で Sybase データベースに対して実行すると、以下のエラーとなり失敗する。

```
RIM access error -quitting
```

解決内容:**wtdbspace** コマンドの問題は、誤った数字変換が原因でした。数字は正しい形式に変換されるようになりました。

APAR: IY45807

症状:**tec_rule** プロセスは、イベントの転送時にメモリー使用量が増大し続ける。

解決内容:解放されない一時割り振りの問題は訂正されました。

APAR: IY45915

症状:Windows ログ・ファイル・アダプターが、SAP イベントを送信しない。

解決内容:SAP イベントは 91 のサブストリングを必要とするので、メッセージの 64 のサブストリングの制限は SAP イベントには少なすぎます。新しい制限は 128 サブストリングです。

APAR: IY45978

症状:2 つの円記号 (¥) を含むスロットを含んだパラメーターや変数を **exec_program** 述部に渡そうとすると、そのパラメーターや変数は切り捨てられ、2 つの円記号が削除される。この問題は、円記号文字と同じ ASCII コード(x5C と 5C) を持つ日本語文字で発生します。

解決内容:円記号は保持され、パラメーターや変数も切り捨てられません。

APAR: IY46556

症状:実数の値が指数表記の形式で表示される。

解決内容:**tec_disable_exponential_format** 構成設定値で、実数を指数形式と浮動小数点形式のどちらで表示するかを指定できるようになりました。

APAR: IY46725

症状:PARSING_FAILED エラーが原因で、イベント・サーバーから有効なイベントが廃棄される。

解決内容:着信イベントのタイムスタンプは、**tec_rule_cache_full_history** 構成パラメーターに照らして誤ってチェックされ、これが一部のイベントが廃棄される原因でした。着信イベントのタイムスタンプはチェックされなくなりました。

APAR: IY46751

症状: **tec_gateway** プロセスのトレース・ファイルに表示されるエラー・メッセージは誤解を招きやすい。

解決内容: より正確な情報を提供するように、エラー・メッセージは更新されています。

APAR: IY46770

症状:**wsendresp** コマンドによって生成されるイベント・コンソールのポップアップ・メッセージによって、ポップアップ・メッセージがクローズするまでコンソールでアクションが実行されなくなる。

解決内容:ポップアップ・メッセージ属性は変更され、形式指定ではなくなりました。

APAR: IY46800

症状:接続問題がイベント処理時に発生すると、Event Integration Facility **tec_put_event()** アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 呼び出しの使用時に、セグメンテーション違反が発生する可能性がある。

解決内容:ネットワーク問題が存在する場合のメモリー割り振りの無関係な解放が問題の原因でした。メモリーは一度だけ解放されるようになりました。

APAR: IY46861

症状:クラス・フィルターに外部の文節を指定したルールを使用し、さらに **tell_err()** 述部を使用した場合、**tell_err()** 述部に指定したファイルに以下のようなエラー・メッセージが書き込まれる。

```
*** RUNTIME 404 *** Illegal call : unknown predicate false/0.
```

解決内容:そのようなエラー・メッセージはログに書き込まれなくなりました。

APAR: IY46977

症状:comit_rule 述部の使用時に、トレースを使用可能にせずにコンパイルされたルールは、構文解析エラーが発生する可能性がある。

解決内容:ルールの構文解析時に、円記号 (¥) が誤って処理されていました。これによって commit_* 述部が、円記号を含むストリングの一部として構文解析されていました。

APAR: IY47079

症状:ConnectionMode=connection_less が構成ファイルで forward_event 述部または re_send_event_conf 述部に指定された場合、tec_rule プロセスは、宛先サーバーが利用できない場合、イベント処理を最大で 4 分間中断する。

解決内容:PingTimeout および NumberOfPingCalls 構成キーワードが追加され、イベントの送信前に、イベント転送で宛先サーバーに ping を実行できるようになりました。詳細については、『このフィックスパックの新機能』を参照してください。

APAR: IY47552

症状:DRVSPEC トレースが SNMP ログ・ファイル・アダプターに対して使用可能になっている場合、誤った v1 トラップまたはすべての非 v1 SNMP トラップは、セグメンテーション違反の原因となる可能性がある。

解決内容:SNMP トラップが正常に処理されなかった場合でも、デバッグ・トレース処理は処理済みの SNMP トラップを出力しようとしていました。トレースは、SNMP トラップが正常に処理された場合にのみ実行されるようになりました。

APAR: IY47646

症状:UNIX プラットフォーム上で実行される Tivoli Enterprise Console サーバーがシャットダウンされると、非 TME イベントが失われる。

解決内容:tec_server プロセスは修正され、UNIX プラットフォーム上でのイベント・サーバー・シャットダウン・シーケンス時に、イベントは消失しなくなりました。

APAR: IY47708

症状: Java@ Console GUI で 1 つまたは 2 つのイベントを選択し、ACK または CLOSE プッシュボタンを使用すると、プッシュボタンは 8 秒間使用不能になる。

解決内容:1 つまたは 2 つのイベントを選択した場合のみ、ボタンは即時に使用できるようになりました。

APAR: IY47948

症状:wtdbpace -T コマンドを実行して Tivoli Enterprise Console 表スペースへのデータの表示を制限する場合、データは正しい順序で表示されない。

解決内容:誤った表スペースへの参照を作成した変数名は上書きされていました。この問題は訂正されています。

APAR: IY47983

症状:Linux ログ・ファイル・アダプターのインストール時に、syslog 対象のプロセスは、\$(TECADHOME)/bin/update_conf スクリプトの実行時に名前付きパイプをオープンしようとした場合にブロックされる。

解決内容:Linux システム上でのパイプの誤った使用は、syslog 対象のプロセスがブロックされる原因になりました。init.tecad_logfile 開始スクリプトは修正され、名前付きパイプを正しく使用できるようになりました。

APAR: IY48053

症状:SCE は、イベント・シンクが受け取ったイベントを、それらが正しくフォーマットされていないため除去する。

解決内容:tec_gateway プロセスは修正され、SCE はイベントを除去しなくなりました。さらに、構成パラメーターを構成する必要があります。詳細については、この Readme ファイルの『フィックスパックについての注意』のセクションを参照してください。

APAR: IY48227

症状:UNIX の TME アダプターの自動始動情報が rc.nfs ファイルで定義されていた。Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9 では、その始動情報が rc.tecad_logfile ファイルに移されまし

たが、自動始動情報は rc.nsf ファイルから削除されませんでした。そのため、エラー・メッセージがログに書き込まれていました。

解決内容:自動始動情報が rc.nsf ファイルから削除されました。

APAR: IY48310

症状:ログ・ファイル・フォーマット・エディターのパターン・マッチング処理が一貫していない。

解決内容:ログ・ファイル・フォーマット・エディターが、パターン・マッチングを一貫して実行するようになりました。

APAR: IY48508

症状:ルール・ベースが以下のようにコンパイルされると、Java 例外が出される場合がある。

1. データ・ファイルがルール・ベース・ターゲットにインポートされる (rule_sets_EventServer など)。
2. 後から同じルール・ベース・ターゲットにルール・パックをインポートし、そのルール・ベース・パックがルール・ベース・ターゲット・ファイルのデータ・ファイル・エントリーの後に置かれる。

解決内容:データ・ファイルをルール・ベース・ターゲットにインポートした後に、ルール・パックをルール・ベースにインポートし、ターゲット・ファイルのデータ・ファイル・エントリーの後に置かれた場合でも、ルール・ベースが正しくコンパイルされるようになりました。

APAR: IY48565

症状: **wrb -imptgtdata** コマンドは、データ・ファイルを正しくインポートできない。

解決内容: このコマンドは、データ・ファイルを正しくインポートできるようになりました。

wrb コマンドの **-imptgtdata** オプションの詳細については、『文書の更新情報』のセクションを参照してください。

APAR: IY48723

症状:カスタム状況の列挙 ID は、「状況の非表示 (Hide Status)」アイコンに表示される。

解決内容:これらの状況は表示されるようになりました。アイコン上でカーソルを停止させると、完全な状況テキストが表示されます。

APAR: IY49078

症状:Tivoli Enterprise Console の Java Event Integration Facility ライブラリーは、cache.dat ファイルが破壊されると、TECAgent.sendEvent() 呼び出しを無期限にブロックする。

解決内容:破壊された cache.dat ファイルは cache.file.corrupt に名前変更され、新しいキャッシュ・ファイルが作成されて、イベントがサーバーに送信されるようになりました。

APAR: IY49270

症状:グラフィカル・ルール・ビルダーの「条件の概要 (Conditions Synopsis)」および「アクションの概要 (Action Synopsis)」フィールドで、英語以外のテキストが誤って表示される。

解決内容:英語以外のテキストは正しく表示されるようになりました。

APAR: IY49393

症状:非 TME バージョンの HP Openview アダプターが、ディレクトリー名の 1 つにスペースがあるディレクトリー・パスにインストールされると、以下のメッセージが表示される。

以下のエラーが表示されます。

```
E:¥TECHPOV¥BIN>Files¥HP¥bin¥gen_lrf E:¥Program Files¥HP
The system cannot find the path specified
E:¥TECHPOV¥BIN>E:¥Program¥bin¥ovaddobj
E:¥Program¥lrf¥tecad_hpov.lrf
The system cannot find the path specified
```

解決内容:HP Openview アダプターは、スペースを含むディレクトリー・パスにインストールできるようになりました。

APAR: IY49600

症状:tec_dispatch プロセスは、イベント・コンソールを使用したイベントの変更時に異常終了する。

解決内容:イベントは、tec_dispatch が異常終了せずに変更できるようになりました。

APAR: IY49463

症状: **wconsole -lsoperator -a** コマンド出力は、コンソールに割り当てられたオペレーターをリストするが、それらは **wconsole -lsconsole -a** コマンド出力ではリストされない。

解決内容: オペレーターは **wconsole -lsconsole -a** コマンド出力でリストされるようになりました。

APAR: IY49711

症状:tec_dispatch プロセスは、Tivoli Enterprise Console 要求メッセージの BAROC 構文解析が失敗すると異常終了する。たとえば、スロット属性がルール処理によって予約語に設定されると、問題が発生する場合があります。

解決内容:BAROC 処理は変更され、予約語がスロット属性で使用できるようになりました。

APAR: IY49757

症状:tec_gateway プロセスは、破壊されたキャッシュ・ファイルのフラッシュ時にすべての CPU リソースを使用する。

解決内容:キャッシュ・ファイルは、CPU 使用率を削減するためにサイズを小さくされました。

APAR: IY50024

症状:adapter *_gencds コマンドによる .CDS ファイルの生成が遅い。

解決内容:コマンド処理が変更され、さらに速く .CDS ファイル生成が実行できるようになりました。

APAR: IY50115

症状:Java イベント・コンソールは、単一ポートでの大量データ転送の使用時と、RIM ホストが文字 I で始まる名前を持つときに、以下のエラーを生成する場合があります。

```
rbdbms cannot be reached
```

解決内容:更新された jcf.jar ファイルは Tivoli Enterprise Console 製品でパッケージされ、この問題を訂正しています。

APAR: IY50466

症状:キャッシュ・ファイルをクリアするために空のイベントを送信すると、その空のイベントも処理される。ヌルのイベントは、tec_gateway レベルで廃棄されるので重要ではありませんが、LCF およびゲートウェイ Framework レベルでの多重定義の原因になります。

解決内容:

APAR: IY50558

症状: 数千のイベントのキャッシュ時にイベント・サーバーが停止すると、tec_rule プロセスが異常終了する。

解決内容: キャッシュされたイベントはそれぞれ処理され、tec_rule プロセスは正常に終了するようになりました。

APAR: IY50909

症状:Tivoli Management Framework の files_transfer 機能は、ログ・ファイル・フォーマット・エディターが以下の環境で開始されると失敗する。

- ACF が UNIX 管理対象ノード上にインストールされている。
- TMR サーバーが Windows プラットフォーム上にインストールされている。
- イベント・サーバーが UNIX 管理対象ノード上にインストールされている。

以下のエラー・メッセージが表示されます。

```
FRWTE0002E 'files_transfer' operation error when saving/closing
```

解決内容:ログ・ファイル・フォーマット・エディターは正しくクローズされ、エラーは表示されなくなりました。

APAR: IY50978

症状:ACP プロファイルに加えられた変更が、配布時のプロファイルのコピーには加えられない。

解決内容:変更はプロファイルのコピーにも加えられるようになりました。

APAR: IY51105

症状:アダプターの起動時間が、Tivoli Enterprise Console バージョン 3.6.2 のアダプターよりも長くかかる。

解決内容:処理が変更され、アダプターの起動に必要な時間は改善されました。

APAR: IY51189

症状:**wtdb space** コマンド出力は、いずれかのデータベース表スペースが DB2® 製品上で MRT (最小リカバリー時間) を指定して構成されている場合に、正しく表示されない。

解決内容:出力は正しく表示されるようになりました。

APAR: IY51190

症状:**getport_timeout_seconds**、**getport_timeout_usec**、**getport_total_timeout_seconds**、および **getport_total_timeout_usec** 構成設定が正しく機能しない。

解決内容:以前に使用されていたシステムのデフォルト・タイムアウトに代えて、これらの構成は正しくインプリメントされるようになりました。

APAR: IY51376

症状:**LogSources** 構成キーワードが指定され、ファイル名に疑問符 (?) のパターン・マッチング文字が含まれている場合、アダプターがログ・ファイルを正しく読み取らない。

解決内容:パターン・マッチング文字を使用して指定されたファイル名も読み取られるようになりました。

APAR: IY51458

症状: **IBM Tivoli Risk Manager** インシデント・サマリー・イベントは、過度な拡張スロットの更新が原因で、**tec_dispatch** プロセスによる CPU 使用率が高くなる場合がある。

解決内容: 拡張スロットは、データが変更されていない場合は更新されなくなりました。

APAR: IY51718

症状: **wconsole -lsoperator -a** コマンド出力は、コンソールに割り当てられたオペレーターをリストするが、それらは **wconsole -lsconsole -a** コマンド出力ではリストされない。

解決内容: オペレーターは **wconsole -lsconsole -a** コマンド出力でリストされるようになりました。

APAR: IY52041

症状: **ITEC** バージョン 3.9 のインストールは、**IBM Tivoli Management Framework** バージョン 4.1.1 がインストールされていると失敗する。

解決内容: **ITEC** バージョン 3.9 は、**Framework 4.1.1** 上に正常にインストールされるようになりました。

APAR: IY52318

症状:**Windows** アダプター・プレフィルタ機能は、イベント・タイプに基づいてフィルタ操作を行わない。

解決内容:**Windows** アダプターのプレフィルタ機能は正しく機能するようになりました。

APAR: IY52333

症状:イベント・コンソールでのオペレーターの作成によって、他のオペレーターが割り当てられる場合がある。

解決内容:オペレーターの割り当て時に、オペレーターが割り当て解除されることはありません。

APAR: IY52367

症状: **UNIX** アダプターは、**/tmp/.tivoli/.tecad_logfile.lock.<hostname>.<id>** への連続的な出力によって、**/tmp** ファイル・システムを満杯にする場合がある。

解決内容: 前述のファイルには、**PID** だけが書き込まれることになりました。

APAR: IY52425

症状:**UNIX** ログ・ファイル・アダプターは、構成ファイルに指定された **-S** パラメーターに関係なく、**syslog** イベントのモニターを実行する。

解決内容:アダプターは **-S** 構成パラメーターを正しく認識し、それに応じて **syslog** イベントをモニターするかまたは無視します。

APAR: IY52514

症状:Windows アダプターが、イベント・ログ・イベントとマッチングしない。“%S*” フォーマット指定子を使用する必要がありますが、これは必ずしもデータを正しいイベント属性にマッピングしません。

解決内容:Windows アダプターは、複数行イベントの文字に正しくマッチングするようになりました。

APAR: IY52787

症状:Java Event Integration Facility の切断時にキャッシュがフラッシュされない。たとえばこれは、カスタム・アダプターがイベントをイベント・サーバーに送信し、即時に切断する場合などです。

解決内容:イベントは送信され、キャッシュは Event Integration Facility の切断前にフラッシュされるようになりました。

APAR: IY52997

症状:ログ・ファイル・アダプターは、LogSources キーワードで指定されるファイルが存在しない場合に開始すると、異常終了する。

解決内容:ログ・ファイル・アダプターは異常終了せず、問題を説明するエラー・メッセージが表示されるようになりました。

APAR: IY53702

症状:WebSphere Application Server (WAS) 5.0 FP02 がバージョン 5.0.2 にアップグレードされると、Web コンソールは正しく機能せず、エラー・メッセージが表示される。

解決内容:バックエンド Web コンソール・ソフトウェアはアップグレードされ、WAS 5.0.2 と正しく相互作用するようになりました。

APAR: IY53153

症状: AIX 5.2 オペレーティング・システム上で、LogSource エントリーを指定すると、イベントが syslog パイプ・ファイルに残される。

解決内容:アダプターは、1 つの名前付きパイプと 1 つの名前のないパイプを使用するのではなく、2 つの名前付きパイプを使用するようになりました。これによってアダプターは、すべての対応するイベントを正しく処理できます。

APAR: IY54334

症状:ネストされた ACP プロファイルが、エンドポイント・アダプター上で削除されない。

解決内容:ネストされた ACP プロファイルは、エンドポイント・アダプター上で削除されるようになりました。

APAR: IY54997

症状:複数のアダプター・スレッドが同時に同じデータにアクセスしようとしていると、LogSources ファイルのモニター中にアダプターがイベントの送信を停止する場合がある。これが発生すると、キャッシュ・テール・ポインターはゼロに設定されます。

解決内容:ロックがインプリメントされ、複数のスレッドが同時に同じデータにアクセスすることはできなくなりました。

APAR: IY55723

症状: 複数のアダプターがインストールされている場合、その 1 つを除去しても、対応する始動スクリプト項目 (/etc/init.d/tecad_logfile) が正しく更新されない。

解決内容: 複数アダプター環境からのアダプターの除去時にも、始動スクリプトは正しく更新されるようになりました。

既知の制限

制限:Sybase RDBMS サーバーに接続するイベント・サーバーから wtdb space コマンドを使用すると、以下のエラーが発生する場合がある。

THE RDBMS SERVER CALL HAS FAILED.

次善策:次善策はありません。

制限:tec_gateway_sce プロファイルが UNIX TMR サーバーから Windows エンドポイントに配布されるときに生成される StateCorrelationConfigURL は、先頭が file: ではなく file:// になる。
次善策:プロファイルの配布後に、tec_gateway.conf ファイルを以下のように変更してください。

オリジナル:

```
StateCorrelationConfigURL=file://$TIVOLIHOME/tec/tecroot.xml
```

新規:

```
StateCorrelationConfigURL=file:$TIVOLIHOME/tec/tecroot.xml
```

問題点:State Correlation は、Red Hat Advanced Server (AS) 2.1 オペレーティング・システム上で機能しない。

次善策:LD_ASSUME_KERNEL 環境変数を以下のように設定してください。

```
LD_ASSUME_KERNEL=2.2.5
```

注:この次善策は、値がすでに LD_ASSUME_KERNEL 環境変数に割り当てられている場合は、IBM Tivoli Management Framework バージョン 4.1.1 で構成された Red Hat AS 2.1 システムには適用できないことがあります。

制限:IBM Tivoli Enterprise Console アダプター (TME および非 TME) は、64 ビットの Intel Itanium クラスのサーバーにインストールされた Red Hat Enterprise Linux 3.0 とは互換性がない。

制限:タスク実行時に Web コンソールに表示される使用可能なホストのリストは、Java コンソールでの表示のような完全なホストのリストではない。「ホスト・リストの最新表示 (Refresh Host List)」ボタンが現在は Web コンソールで使用可能ではないことに注意してください。

次善策:次善策はありません。

制限:特定の状況下では、netware.rls ルール・ファイルを含むルール・セットのコンパイルをする
と以下のエラーが生成される場合がある。

```
"Translating to prolog" step of the netware.rls ruleset.
```

```
Exception in thread "main" java.lang.StackOverflowError
```

```
at com.oroinc.text.regex.Perl5Matcher._pushState(Perl5Matcher.java)
```

```
at com.oroinc.text.regex.Perl5Matcher._match(Perl5Matcher.java)
```

```
at com.oroinc.text.regex.Perl5Matcher._match(Perl5Matcher.java)
```

```
at com.oroinc.text.regex.Perl5Matcher._match(Perl5Matcher.java) ... ..
```

注:このエラーの原因となる特定のルールは、novell_duplicate_minor_events です。

次善策:次善策はありません。

制限:Web コンソールのイベント・ビューアーのリフレッシュ速度は、最小の 5 分に設定される。
このインターバルは短くすることができません。

制限:(APAR:IY55401) syslog と、LogSources オプションで指定されたファイルのモニター中に、UNIX ログ・ファイル・アダプターは、イベント・サーバーへのイベントの送信を停止する場合があります。次善策:IBM Tivoli Enterprise Console 一時フィックス (3.9.0-TEC-0005LA) がリリースされ、IY55401 の解決法が提供される予定です。この一時フィックスは、3.9.0-TEC-FP01 のインストール後に適用可能です。

制限:特定の条件下では、UNIX ログ・ファイル・アダプターは、イベント・サーバーへのイベントの送信を停止する場合があります。この問題は、IBM Tivoli Management Framework APAR IY53132 と関係があります。

次善策:これを解決するために、現在インストールされている現行バージョンの IBM Tivoli Management Framework に対応する、以下のパッチを適用してください。

3.7.1-LCF-0018 または 3.7.1-TMF-0129 (2004 年の第 2 四半期末までにリリースの予定)

4.1-LCF-0024 または 4.1-TMF-FP02

4.1.1-LCF-0002 (2004 年の第 2 四半期末までにリリースの予定)

文書の更新情報

- 「*IBM Tivoli Enterprise Console インストール・ガイド*」の 40 ページの「イベント・コンソールのインストール (Installing the event console)」のセクションは、以下のように更新する必要があります。

インストール・ウィザードを使用したイベント・コンソールのインストール

- 「**Tivoli 環境でコンポーネントをインストール、アップグレード、またはアンインストール (Install, upgrade or uninstall components in a Tivoli environment)**」をクリックし、「**次へ (Next)**」をクリックします。
- ウィザードがインストール済みコンポーネントを検索した後で (何も検出されない)、**「次へ (Next)」** をクリックします。
- 「**IBM Tivoli Enterprise Console 3.9 コンポーネントのインストール (IBM Tivoli Enterprise Console 3.9 components)**」をクリックして、「**次へ (Next)**」をクリックします。
- 「**イベント・コンソール (Event console)**」をクリックして、「**次へ (Next)**」をクリックします。
- ご使用の環境に複数の管理対象ノードが含まれている場合、インストール・ウィザードは、選択できる複数の管理対象ノードを表示します。ただし、このインストールは単一のマシンを対象にしているため、ステップは表示されません。アクティブにするルール・セットのリストが表示され、それらはすべて選択されています。どのルール・セットも非アクティブにせずに続行するには、「**次へ (Next)**」をクリックします。
- 「**次へ (Next)**」をクリックすると、どのイベント・サーバー始動オプションも変更せずに続行します。
- 「**次へ (Next)**」をクリックすると、言語パックを選択せずに続行します。
- 選択項目を見直して、「**次へ (Next)**」をクリックします。
- Tivoli Enterprise Console インストール CD を挿入して、「**次へ (Next)**」をクリックします。
- インストール・メッセージを見てから、「**次へ (Next)**」をクリックします。メインのインストール・ウィンドウが表示されます。

スタンドアロン・インストーラーを使用したイベント・コンソールのインストール

Windows システムへの非 TME イベント・コンソールのスタンドアロン・インストールが、このフィックスパックで利用可能になりました。これにより、インストール・ウィザードを使用せずにイベント・コンソールをインストールする機能が提供されます。

インストール・ウィザードを使用せずにイベント・コンソールをインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
%PATCH%\NON_TME\W32-IX86\setupwin32.exe
```

- 3.9 バージョンの「コマンドとタスクのリファレンス」にある wrb コマンドの `-imptgtdata` オプションについては、以下のように更新する必要があります。

```
-imptgtdata data_file target rule_base
```

これにより、サポートされるデータ・ファイルがルール・ベース・ターゲットにインポートされます。このファイルはすでに `TEC_RULES` サブディレクトリに存在しており、ルール・ベースで配布されていなければなりません。たとえば、以下のファイルをインポートすることができます。

- Event Integration Facility 構成ファイル
- Prolog ファクト・ファイル
- Prolog データ・ファイル

`data_file`

名前付きルール・ベース・ターゲットにインポートされるファイルの名前を指定します。パスではなく、ファイル名を指定します。ファイルはすでに `TEC_RULES` サブディレクトリに存在していなければなりません。

`target`

インポートされたデータ・ファイルを受け取るルール・ベース・ターゲットの名前を指定します。

rule_base

ターゲットを含むルール・ベースの名前を指定します。

- 新規バージョンの **wstoptecgw** コマンドについての以下の情報を、IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9 の「コマンドとタスクのリファレンス」に追加する必要があります。

wstoptecgw (管理対象ノード・バージョン):

管理対象ノード・バージョンの **wstoptecgw** コマンドは、管理対象ノード上にインストールされている Tivoli Enterprise Console ゲートウェイを停止させるために使用されます。管理対象ノード・バージョンの **wstoptecgw** コマンドは管理対象ノード上にインストールされ、エンドポイント・バージョンの **wstoptecgw** コマンドはエンドポイント上にインストールされます。tec_gateway プロファイルが管理対象ノードまたはエンドポイントのいずれかに配布される時に、該当する **wstoptecgw** コマンドが自動的に呼び出されます。

EnableSigTerm キーワードは、どのバージョンのコマンドがインストールされているかを判別するために使用します。デフォルト値は **EnableSigTerm=YES** で、これは、ゲートウェイが管理対象ノード上にインストールされている場合に、新規バージョンの **wstoptecgw** コマンドが使用されることを意味します。

構文:

wstoptecgw

説明:

管理対象ノード・バージョンの **wstoptecgw** コマンドは、管理対象ノード上の Tivoli Enterprise Console ゲートウェイを停止させます。Tivoli Enterprise Console ゲートウェイはイベントの受け取り時に自動的に再始動するので、ゲートウェイを開始するための対となるコマンドはありません。このコマンドは、ゲートウェイがあるホスト（管理対象ノード）にソーシングされたシェル上で実行する必要があります。

ゲートウェイがあるホスト（管理対象ノード）にソーシングされたシェル上で **wstoptecgw** コマンドを実行できるようにするには、以下のステップを実行します。

1. Tivoli Enterprise Console ゲートウェイとして機能する管理対象ノード上に、アダプター構成機能がインストールされていることを確認します。
2. tec_gateway 構成ファイルにアダプター構成プロファイル項目を作成し、**EnableSigTerm=YES** を指定します。
3. この tec_gateway アダプター構成プロファイルを管理対象ノードに配布します。これで、**wstoptecgw** コマンドが管理対象ノード上の \$BINDIR/bin/ ディレクトリーにインストールされます。

このフィックスパックで追加または置き換えられたファイル

TME/TEC/tec_gateway.exe
bin/wstoptecgw
TME/ACP/acp
TME/ACP/acpep
TME/TEC/tec_gateway
bin/wstoptecgw
bin/postemsg
bin/postzmsg
bin/wpostemsg
bin/wpostzmsg
TME/TEC/default_sm/tecsce.dtd
TME/TEC/evd.jar
TME/TEC/zce.jar
TME/TEC/jcf.jar
TME/TEC/ibmjsse.jar
TME/TEC/jsafe.zip
TME/TEC/xercesImpl-4.2.2.jar
TME/TEC/xml-apis-4.2.2.jar
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile

bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/os2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecadini.sh
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/aix4-r1/bin/postemsg
bin/hpux10/bin/postemsg
bin/solaris2/bin/postemsg
bin/linux-ix86/bin/postemsg
bin/linux-s390/bin/postemsg
bin/w32-ix86/bin/postemsg.exe
bin/os2-ix86/bin/postemsg.exe
bin/linux-ppc/bin/postemsg
bin/aix4-r1/bin/postzmsg
bin/hpux10/bin/postzmsg
bin/solaris2/bin/postzmsg
bin/linux-ix86/bin/postzmsg
bin/linux-s390/bin/postzmsg
bin/w32-ix86/bin/postzmsg.exe
bin/linux-ppc/bin/postzmsg
bin/os2-ix86/TME/ACP/acpep
bin/aix4-r1/TME/ACP/acpep
bin/hpux10/TME/ACP/acpep
bin/solaris2/TME/ACP/acpep
bin/linux-ix86/TME/ACP/acpep
bin/linux-s390/TME/ACP/acpep
bin/w32-ix86/TME/ACP/acpep
bin/linux-ppc/TME/ACP/acpep
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencls
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencls
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencls

bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_win.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecadwins.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/win_gencds.exe
bin/os2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecados2.exe
bin/os2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/os2gncds.exe
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmps.exe
bin/linux-ppc/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/aix4-r1/bin/wpostemsg
bin/hpux10/bin/wpostemsg
bin/solaris2/bin/wpostemsg
bin/linux-ix86/bin/wpostemsg
bin/linux-s390/bin/wpostemsg
bin/w32-ix86/bin/wpostemsg.exe
bin/os2-ix86/bin/wpostemsg.exe
bin/linux-ppc/bin/wpostemsg
bin/aix4-r1/bin/wpostzmsg
bin/hpux10/bin/wpostzmsg
bin/solaris2/bin/wpostzmsg
bin/linux-ix86/bin/wpostzmsg
bin/linux-s390/bin/wpostzmsg
bin/w32-ix86/bin/wpostzmsg.exe
bin/linux-ppc/bin/wpostzmsg
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/mips-irix5/bin/postemsg
bin/osf-axp/bin/postemsg
bin/reliant-unix/bin/postemsg
bin/sequent/bin/postemsg
bin/solaris2-ix86/bin/postemsg
bin/uw2-ix86/bin/postemsg
bin/mips-irix5/TME/ACP/acpep
bin/osf-axp/TME/ACP/acpep

bin/reliant-unix/TME/ACP/acpep
bin/sequent/TME/ACP/acpep
bin/solaris2-ix86/TME/ACP/acpep
bin/uw2-ix86/TME/ACP/acpep
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/mips-irix5/bin/wpostemsg
bin/osf-axp/bin/wpostemsg
bin/reliant-unix/bin/wpostemsg
bin/sequent/bin/wpostemsg
bin/solaris2-ix86/bin/wpostemsg
bin/uw2-ix86/bin/wpostemsg
bin/wlsemmsg
bin/wsetemsg
bin/wtdbpace
TME/TEC/jcf.jar
TME/TEC/jcf.jks
TME/TEC/ibmjsse.jar
TME/TEC/jrim.jar
TME/TEC/jsafe.zip
TME/TEC/tec_console.jar
TME/TEC/tec_ui_svr.jar
TME/TEC/evd.jar
TME/TEC/log.jar
bin/tec_console(!w32-ix86,!linux-s390)
bin/tec_console.cmd(w32-ix86)
TME/TEC/adapters/bin/tecad_hpov
bin/wpostemsg
bin/postemsg
TME/TEC/adapters/bin/tecad_hpov.exe
bin/wpostemsg.exe
bin/postemsg.exe
TME/TEC/jre.tar
TME/TEC/samples/correlation/correlate.rls
TME/TEC/samples/correlation/log_default.rls
TME/TEC/tec_server
TME/TEC/tec_dispatch
TME/TEC/tec_reception

TME/TEC/tec_rule
TME/TEC/tec_rule_data
TME/TEC/tec_task
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/hpux10/event_specifiers.wic (hpux10)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/solaris2/event_specifiers.wic (solaris2)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/aix4-r1/event_specifiers.wic (aix4-r1)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/w32-ix86/event_specifiers.wic (w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/linux-s390/event_specifiers.wic (linux-s390)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/linux-ix86/event_specifiers.wic (linux-ix86)
TME/FORMAT_EDITOR/fmt_edit
TME/TEC/default_rb/TEC_RULES/netview.rls
TME/RULE_BUILDER/builder
TME/RULE_BUILDER/builder_data
TME/TEC/builder_data (w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/hpux10/event_specifiers.wic (hpux10)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/solaris2/event_specifiers.wic (solaris2)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/aix4-r1/event_specifiers.wic (aix4-r1)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/w32-ix86/event_specifiers.wic (w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/linux-s390/event_specifiers.wic (linux-s390)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/linux-ix86/event_specifiers.wic (linux-ix86)
TME/TEC/tec_rb.jar
TME/TEC/event.jar
TME/TEC/jsafe.zip
TME/TEC/jcf.jar
TME/TEC/jcf.jks
TME/TEC/ibmjsse.jar
TME/TEC/jcf.jar
TME/TEC/jcf.jks
TME/TEC/ibmjsse.jar
TME/TEC/jrim.jar
TME/TEC/jsafe.zip
TME/TEC/tec_console.jar
TME/TEC/tec_ui_svr.jar
TME/TEC/tec_ui_server

カスタマー・サポートとの連絡

資料およびカスタマー・サポートについては営業担当員にお問い合わせください。

-
-
-

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032

IBM Corporation
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032

東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM はまたこれらの情報に掲載されている製品やプログラムを何時でも、予告なしに改善または変更することがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
224A/101
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758 U. S. A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

Trademarks

IBM、IBM ロゴ、AIX、DB2、Informix、OS/2、OS/400、Tivoli、Tivoli ロゴ、Tivoli Enterprise Console、および TME は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。